



公開シンポジウム

# 社会的包摂

## 政策の成功と失敗

～イギリスの経験、日本の希望～

What is Social Inclusion?  
Lessons from the UK, Hopes for Japan

Japan-UK Research Cooperative Program

2012年1月7日(土)

13:00 ~ 17:15

慶應義塾大学 北館ホール

North Hall, Keio University

入場無料 / 先着200名 / 事前登録制

## 開催趣旨

### Purpose

社会的排除/包摂の概念は、フランスの「反排除法」、イギリスの「社会的排除問題対策本部 (Social Exclusion Unit: SEU)」、EUの社会的包摂ナショナル・アクション・プランなど、世界の社会政策の実践の場においても既に取り入れられています。日本においても、2011年4月、内閣官房に社会的包摂推進室が設置され、貧困のみならず、「無縁社会」「孤立化」などに立ち向かう新しい社会政策の方向性が打ち出されました。しかしながら、社会的包摂推進室のモデルであったイギリスSEUは、1999年と早くに設置されたのにも関わらず、新政権の下、現在は廃止されています。10年間のSEUはイギリスの社会政策に何をもたらしたのか、また、何を達成し、達成しなかったのか。イギリスの経験から日本の包摂政策が学ぶべきものは何か。本シンポジウムでは、これらの問いに答えることを目指します。

ホーセツって  
なんや???

どうなる  
日本の貧困?

無縁社会  
孤立には  
どう立ち向かうの?

13:00

### 開会挨拶

Opening Words

西村周三 (国立社会保障・人口問題研究所長)  
Shuzo NISHIMURA ( Director, IPSS)

13:15

### 基調講演 1

Keynote Speech 1

「イギリスの社会的包摂政策:成功と失敗」  
“The Successes and Failures of Social Inclusion Policy in the UK”

デイヴィッド・ゴードン

(ブリストル大学 タウンゼント国際貧困研究所長)  
David Gordon ( Director, the Townsend Centre for  
International Poverty Research, Bristol University)

### 基調講演 2

Keynote Speech 2

「日本の社会的包摂推進室の試み」  
“Social Inclusion Policy in Japan”

湯浅 誠

(内閣府参与・内閣官房社会的包摂推進室長)  
Makoto YUASA ( Head, Social Inclusion Unit Japan)

15:00

### 休憩

Break

15:15

### パネル・ディスカッション

Panel Discussion

パネリスト:

Panelists:

デイヴィッド・ゴードン

David Gordon

湯浅 誠

Makoto YUASA

ジョナサン・ブラッドショー (ヨーク大学)

Jonathan Bradshaw (York University)

クリスティーナ・パンタジス (ブリストル大学)

Christina Pantazis (Bristol University)

駒村 康平 (慶應義塾大学)

Kohei KOMAMURA (Keio University)

岩田 正美 (日本女子大学)

Masami IWATA (Japan Women's University)

橘木 俊詔 (同志社大学)

Toshiaki TACHIBANAKI (Doshisha University)

モデレーター:

Moderator:

阿部 彩 (国立社会保障・人口問題研究所)

Aya ABE (IPSS)

17:15

### 閉会

Closing

## プロフィール Profile



デイヴィッド・ゴードン  
David Gordon

ブリストル大学タウンゼンド国際貧困研究所長。生物学と地理学の基礎を貧困対策と融合させることに成功させた。現在の研究領域は、貧困の科学的測定、犯罪と貧困、子ども期の障害、地域ベースの貧困対策、貧困と健康の関係、住宅政策

など。南太平洋地域における安全な水の確保のプロジェクトにも関わっている。



湯浅 誠  
Makoto YUASA

内閣府参与、内閣官房社会的包摂推進室長、反貧困ネットワーク事務局長、NPO法人自立生活サポートセンター・もやい事務局次長。90年代より野宿者（ホームレス）支援に携わる。「ネットカフェ難民」問題を数年前から指摘し火付け役となるほか、貧困者を食い物にする「貧困ビジネス」を告発するなど、現代日本の貧困問題を現場から訴えつづける。2008～2009年年末年始の「年越し派遣村」では村長を務める。2009年内閣府参与に就任。著書に『反貧困』（岩波新書、第14回平和・協同ジャーナリスト基金賞大賞、第8回大仏次郎論壇賞）、『貧困襲来』（山吹書店）など。最新刊に『どんとこい！貧困』（理論社）、『岩盤を穿つ』（文藝春秋社）。

photo by 中川賢俊

者を食べ物にする「貧困ビジネス」を告発するなど、現代日本の貧困問題を現場から訴えつづける。2008～2009年年末年始の「年越し派遣村」では村長を務める。2009年内閣府参与に就任。著書に『反貧困』（岩波新書、第14回平和・協同ジャーナリスト基金賞大賞、第8回大仏次郎論壇賞）、『貧困襲来』（山吹書店）など。最新刊に『どんとこい！貧困』（理論社）、『岩盤を穿つ』（文藝春秋社）。



ジョナサン・ブラッドショー  
Jonathan Bradshaw

ヨーク大学教授。イギリス政府および国際機関で多数の顧問などを務める。ヨーク大学社会政策研究ユニット（SPRU）の発足にかかわる初代ディレクター、ヨーロッパ連合における社会的包摂ナショナル・アクション・プランのイギリス専門家として務めたほか、ユニセフなどの国際機関のアドバイザーでもある。特に子どもの貧困の研究について著名。



クリスティーナ・パンタジス  
Christina Pantazis

ブリストル大学、タウンゼンド国際貧困研究所講師。1999年の貧困と社会的排除調査より、チーム・メンバーとして活躍している。専門は、貧困と社会的排除、犯罪。近年は、社会的被害の概念を発展させ、イギリスにおけるテロリスト対策がイスラム系やアジア系コミュニティに与える影響を研究。



岩田 正美  
Masami IWATA

日本女子大学教授。厚生労働省社会保障審議会委員などを歴任。研究テーマは、貧困・社会的排除と福祉政策。主著に第2回社会政策学会学術賞、第4回福武直賞受賞『戦後社会福祉の展開と大都市最底辺』（ミネルヴァ書房）、『現代の貧困 ワーキングプア／ホームレス／生活保護』（ちくま書房）、『社会的排除－参加の不足・不確かな帰属』（有斐閣）など多数。



駒村 康平  
Kohei KOMAMURA

慶應義塾大学経済学部教授。厚生労働省顧問。厚生労働省女性と年金検討会委員、社会保障審議会人口部会委員などを歴任。主著に、『年金はどうなる』（岩波書店）、『大貧困社会』（角川SSC新書）、『年金を選択する』（慶應義塾大学出版会）など多数。



橘木 俊詔  
Toshiaki TACHIBANAKI

同志社大学経済学部教授。京都大学名誉教授。元日本経済学会会長。京都大学大学院経済学研究所教授、経済企画庁客員主任研究官、日本銀行客員研究員などを経て現職。研究テーマは、所得格差。主著に格差論争の火付け役となり、エコノミスト賞を受賞した『日本の経済格差』、石橋湛山賞を受賞した『家計からみる日本経済』（ともに岩波新書）のほか多数。



阿部 彩  
Aya ABE

国立社会保障・人口問題研究所、社会保障応用分析研究部長。内閣官房社会的包摂推進室企画官、厚生労働省社会保障審議会臨時委員（生活保護基準部会）、内閣府男女共同参画会議専門委員などを務める。研究テーマは、貧困、社会的排除、社会保障、公的扶助。主著は『子どもの貧困 日本の不公平を考える』（岩波新書）、『生活保護の経済分析』（共著、東京大学出版会）。

公開シンポジウム（東京）  
社会的包摂政策の成功と失敗  
～イギリスの経験、日本の希望～

日時：  
2012年1月7日（土）  
13:00～17:15（12:30 開場）

主催：  
国立社会保障・人口問題研究所、  
プリストル大学タウンゼンド国際貧困研究所  
後援：慶應義塾経済学会  
このシンポジウムは平成23年度独立行政法人  
日本学術振興会とイギリス Economic & Social  
Research Council との二国間交流事業（セミナー）  
による支援を受けて開催されます。

言語：日本語、英語  
通訳：同時通訳有り  
参加費：無料  
定員：先着200名  
事前登録：必要

ご来場方法

会場：  
慶應義塾大学 三田キャンパス 北館ホール  
（〒108-8345 東京都港区三田2-15-45）

アクセス：  
JR山手線・JR京浜東北線  
「田町駅」西口から徒歩8分  
都営地下鉄浅草線  
「三田駅」A3出口から徒歩7分  
都営地下鉄三田線  
「三田駅」A10出口から徒歩7分  
都営地下鉄大江戸線  
「赤羽橋駅」赤羽橋口から徒歩8分

参加ご希望の方

お申込方法：  
席数に限りがありますので12月22日までに  
インターネットまたはFAXでお申込みください。

インターネットの場合  
<http://www.ipss.go.jp/int-sem/JPUK2012> に  
アクセスし「申込フォーム」よりご登録下さい。

FAXの場合  
氏名、所属、連絡先（電話番号とE-mailアドレス）  
を明記の上、03-3502-0636にお送りください。

お問合せ先：  
国立社会保障・人口問題研究所  
社会保障応用分析研究部 上枝 または 白瀬  
Tel: 03-3595-2984  
Fax: 03-3502-0636  
E-mail: JPUK2012@gmail.com



©2011 Google - 地図データ©2011 ZENRIN



国立社会保障・人口問題研究所